

## 青梅大祭 山車人形鎧修理お披露目



本学染織文化資源研究所で修理を行った、青梅市森下町の所蔵の山車人形「竹内宿禰」の鎧のお披露目が9月10・11日に青梅市の旧稲葉邸(東京都指定有形民俗文化財)で行われました。

この修復事業は公益財団法人 東日本鉄道文化財団、青梅市教育委員会、町内文化財修復金の助成金で、令和3年度に行いました。

鎧の小札のはがれや威し紐の外れ、威しを支える布部分の破れを  
今後の取り扱いに耐えられるように 修理を行いました。



鎧 修理前



鎧 修理後



鎧飾り 修理前



鎧飾り 修理後



草摺 修理前



草摺 修理後

## 修理pick up 小札(こざね)の修理

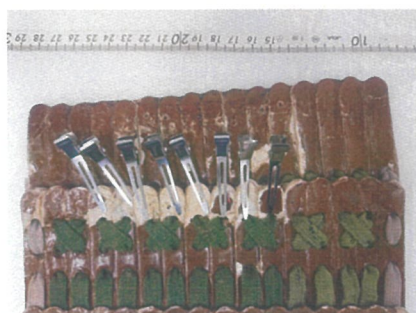
鎧の小札は紙を重ねていたのので剥がれている一枚一枚は可逆性のある糊で接着し、和紙を貼って柿渋を数回に分けて補彩しました。柿渋は徐々に色づいて周りの古い小札の色になじんでいきます。



修理前



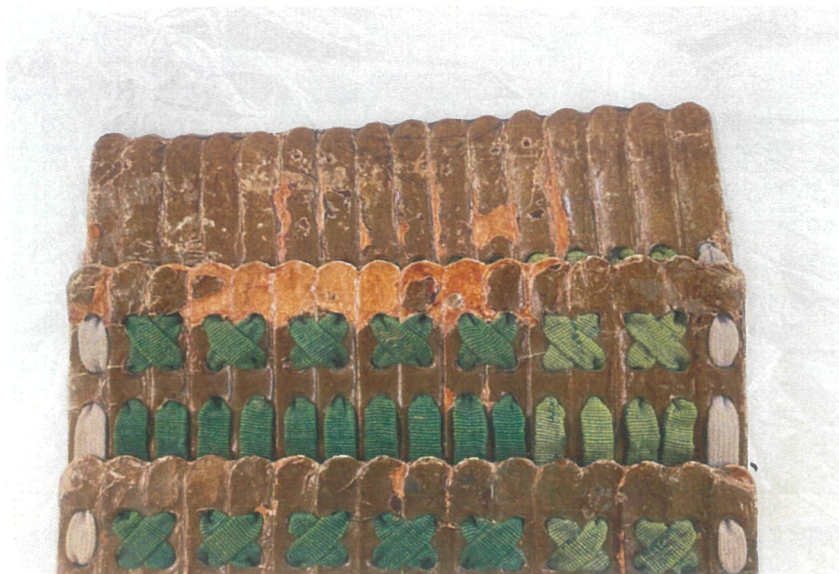
糊で接着



接着の固定



接着後



補彩後

山車人形「竹内宿禰」は、江戸末期の嘉永元年(1848)に二代目仲秀英によって製作され、江戸神田三河町旧蔵。

青梅市森下町が所蔵して150年以上の経過していることからこれまで、山車幕、陣羽織、袴、袖などを修復し、その姿を現在に伝えています。

※森下町人形保存会 岩浪孝一委員長による



森下町人形保存会皆様と修復スタッフ



山車幕は平成23年度に本学で修復を行いました。

※修理前後全体写真の撮影 本学非常勤講師 坂本敦宏先生 その他染織文化資源研究所